



# 日本SPF豚協会だより

2026.4  
No.103

## <追悼>

### 濱岡隆文認定委員長が逝去

2025年(令和7年)12月24日、日本SPF豚協会SPF豚農場認定委員会の第3代委員長をお務めいただいていた濱岡隆文先生が急逝されました。享年73。

昨年夏ごろから貧血の症状があるとのことで治療を受けておられましたが、9月の認定委員会にも青森県から上京されました。11月25日の表彰農場選考委員会の際はご自宅からのオンライン参加となりましたが、議長をお務めいただき、長時間の会議も普段と変わらぬお元気な様子でした。12月の認定委員会には実参加するつもり、ともおっしゃいました。いただいたメールによれば、その2日後に定期治療を受けに訪れた病院で「本人もびっくり」の即入院に。治療が功を奏し、ご復帰いただけるものとばかり思っていましたので、大きな驚きと哀しみで言葉もありませんでした。

濱岡先生は東京都杉並区のご出身、1978年(昭和53年)酪農学園大学を卒業後、農林省家畜衛生試験場(家衛試、現：国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構動物衛生研究部門(動衛研))に入省、1989年(平成元年)には東北支場に主任研究官として赴任されました。この時の経験が先生のその後の人生に大きな影響を及ぼし、青森県在住へとつながったようです。生前、「3人の子供たちはみな茨城県つくば市で生まれ、青森県の高校を卒業、全国の大学へと巣立ち、今は青森が故郷であることを心の糧として各地で生活している」とお話しされていました。

その後、家衛試企画連絡室主任研究官、総合診断部疫学研究室室長、動衛研企画調整部研究交流科長、七戸研究施設長、研究管理監(東北担当)、企画管理部長を歴任、第19代動衛研所長に就任されました。退任後には(一財)生物科学安全研究所(安全研)に入所、事業統括部長、専務理事(代表理事)を経て理事長(代表理事)に就任、7年にわたり同研究所のトップとして手腕を発揮されました。

先生には安全研在任中の2015年(平成27年)、副委員長としてSPF豚農場認定委員会学識経験者委員をお引き受けいただ

き、29年(2017年)より、第2代柏崎守委員長の後を受け委員長に就任され、8年以上委員長をお務めいただきました。

我が国の家畜衛生事業において数々の重責を担われた先生で

すが、認定委員会では気さくに、常に農場やピラミッドの立場に立って、厳しくも愛情にあふれたご指導をいただきました。温厚で思慮深く、現場の声にも耳を傾け、会議を取りまとめていくお姿はスマートでとても紳士的でした。

最後に、4年前先生にお寄せいただいた協会だより87号の提言の一部をご紹介します。



家畜は人が世話をしないと健康に育つことはできません。人が家畜と病原体を繋ぐ最も危険な存在であることを私たちは知らなければなりません。故に科学的根拠をもった感染症対策を予防の観点から日常管理に応用したのが、協会の認定基準です。私たちが最も大事にすべきものだと考えています。皆さん、改めて目を通してみてください。

SPF認定農場は豚の健康に関する損耗要因を極力排除した健全な生産環境を維持して健康な豚を育てることで高い生産性を維持し、健全で美味しい豚肉を届けることで消費者の支持を得て、安定した経営の実現をめざすものと考えます。その第一歩は、地道であっても科学的根拠をもって策定されている自分たちのルールを疎かにすることなく、健康な豚を育てるプロフェッショナルであり続けることではないでしょうか。今、感染症の時代とも言われ、私たちSPF豚協会が目指してきたことは間違いではなかったことが明白になりました。会員の皆様には、時代を先導してきたとも言えるSPF養豚への取り組みをご自身の誇りとして更なる発展を目指していただきたいと思います。

先生のご遺志を常に胸に刻みながら、なお一層努力を重ねてまいりたいと思います。本当にありがとうございました。謹んでご冥福をお祈りいたします。  
(編集部)

# 講演テーマが会員ニーズに ジャストで好評、新たな農場表彰も

## SPF豚セミナーを開催、懇親会も

協会では、令和7年度のSPF豚セミナーを令和8年1月19日(月曜日)午後1時から、KKRホテル東京(東京都千代田区)にて開催しました。来場70名、オンライン視聴30名と、昨年度を上回る多くの方に参加いただきました。



セミナーに先立ち12月に急逝された、濱岡隆文SPF農場認定委員長に黙祷をささげました。

まず、小林一彦協会専務理事から、恒例の認定CM農場生産成績年次報告(2024年度)がありました。CM農場の生産成績はここ数年総合生産指数でほぼ横ばい、これは産子数や肉豚出荷頭数の改善がある一方で、A薬品(抗生剤)の使用金額が増加していることが要因でした。しかし、認定農場の肉豚1頭あたりの抗菌剤費の平均は240円で、全国の豚用抗菌剤販売高とと畜頭数から推定される739円に比べ3分の1でした。

つづいて、生産成績最優秀CM農場表彰式を執り行いました。総合生産成績部門最優秀賞はホクレンピラミッドの有限会社高橋畜産(北海道せたな町、4年連続4回目)、商品化頭数最優秀賞は全農畜産サービスピラミッドの農事組合法人ジョイフルファーム八幡平(岩手県洋野町、2年連続2回目)がそれぞれ受賞しました。両農場に表彰状とトロフィーが授与された後、選考委員でもある鷺谷敏一会長から講評がありました。



総合生産成績部門最優秀賞を受賞した(有)高橋畜産の高橋佐和子取締役



商品化頭数部門最優秀賞受賞の(農)ジョイフルファーム八幡平の阿部正樹組長(右)と西村幸広農場長

つぎに、新たに設立された選考委員長特別賞の表彰が行われました。この賞は選考委員長でもある濱岡認定委員長の強い思いから生まれました。2024年度の選考委員会の際に「成績に基づく最優秀農場の表彰は、もちろん価値あるものだが、創意工夫やたゆまぬ努力によって、飛躍的に農場生産性を向上させたり、経営の安定を図っている農場も多数あるのではないか。そうした農場の努力を讃え、農場の励みやほかの農場の参考になる表彰があってもいいのではないか」との提案があり、1年かけてピラミッドが候補農場を推薦、昨年11月25日の選考委員会で次の3農場が決定いたしました。

### ササキSPFファーム (北海道芽室町、ホクレンピラミッド)

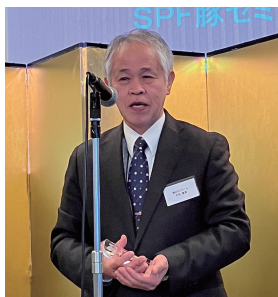
ホクレンピラミッド第1号のSPFCM農場で、認定農場でも最小規模ながら、SPF豚の利点を生かし堅実な生産と経営を維持、永年にわたる努力を評価

### (株)のだファーム第1繁殖農場 (岩手県野田村、全農畜産サービスピラミッド)

他業種から養豚に参入、養豚振興に積極的に取り組み県内でもいち早くSPF豚を導入、意欲的な生産で高成績を維持、地域のブランド化、人材育成の積極的な取り組みなどを評価

### (株)ファームテックえびの種豚場 (宮城県えびの市、日本農産工業ピラミッド)

疾病の侵入を許し種豚の販売停止の危機に直面。農場職員はじめすべての関係者が意識改革、防疫対策を共有、短期間で復帰。清浄化に関わった全員の農場持続発展に向けた努力を評価



特別賞を受賞し挨拶する(株)のだファームの平谷東英社長



特別賞受賞の(株)ファームテックの松本伸一さん



ササキ SPF ファームの受賞挨拶を代読するホクレン生産技術課の齋藤史門さん



(株)タイミー社長室一次産業グループの央戸健太さん



YUIME(株)の江城嘉一常務取締役

3農場には賞状とトロフィーが授与されました(ササキSPFファームはホクレンピラミッドが代理で受け取り、後日農場にお届けいただきました)。

休憩後「農場労働力の確保と人材育成」をテーマに、報告と講演がありました。

まず、最初に会長より外国人技能実習の雇用の課題など農場での人材確保の実情についての報告がありました。

次に、「現場が楽になる!養豚農家のためのタイミー活用術」と題して、(株)タイミーの社長室一次産業グループの央戸健太氏より、講演いただきました。タイミーはスポットワークの分野では高いシェアを誇る企業で、マッチングができていくワーカー人材は1,300万人ともいわれ、同じ事業所へのリピート率も94%を誇っています。

一次産業への展開は始まったばかりとのことですが、「まずこういう仕事があるということ、働きたい人に知ってもらうことから始める。そして徐々にリピートする中でスキルアップしてらえる」とのことでした。当協会の会員農場でもタイミーでの求人が始まったところがあり、今後を期待していきたいと思います。

最後に、特定技能外国籍人材派遣事業で実績のある、YUIME(株)の江城嘉一常務取締役による「技能実習、終わったその先へー特定技能2号合格実績多数あり、専門家が語る“新制度&特定技能”まるわかり」と題した講演がありました。YUIMEは800人の特定技能人材をかかえ、一次産業を中心に派遣事業を行っています。

江城さんは「長期的な人材戦略が必要な時代。農家(事

業) 継続のために、特定技能を後継者に据えることも視野にいれなければならない。「従来技能実習生は安易に受け入れられたが、制度が変わり、農業分野は切り捨てられる可能性がある。また、就労育成を安易に考えると企業の評価を棄損するおそれがある。当社は特定技能1号の育成実績をもとに優秀な人材を農家に派遣することが可能であり、ぜひ活用していただきたい」とのことでした。また、北東インドでの人材発掘も検討しているとのことでした。

セミナー終了後には昨年に引き続き懇親会が行われ、セミナー会場参加のほぼ全員、70名近い方にご参加いただきました。認定農場産豚肉のしゃぶしゃぶやウインナーソーセージが供され、大好評でした。あちこちで人の輪が広がり、貴重な情報交換の場となったようです。

今回のテーマはタイムリーで参加者ニーズに即した内容だった、との参加者からの声をいただきました。講師、表彰農場、関係各位に心より感謝申し上げます。ご参加いただいた方々、誠にありがとうございました。



後日ホクレンより届けられた特別賞の賞状とトロフィーを手にするササキ SPF ファームの佐々木啓隆社長(左)とお父さんの春男さん

# SPF豚農場と飼養頭数の分布 (2026年3月現在)

前年度に比べ農場数は横ばいながら、飼養母豚数は減少した。これは九州地域の大型農場を含む退会があった一方で、認定復活した農場があったことによる。地域別では東北および関東地域が回復傾向にある。全国の飼養母豚数75.8万頭(令和6年2月現在、畜産統計)に占める認定SPF豚の割合は9.4%と、前年度を0.1ポイント下回った。飼養戸数は5%弱となった(令和7年は畜産統計発表なし)。

表1 認定農場の分布

飼養規模(頭)	北海道	東北	関東	北信越	東海近畿	中四国	九州	合計	飼養母豚数
99以下	2	0	1	0	0	2	0	5	268
100～299	3	4	17	3	0	1	4	32	6,714
300～599	4	4	7	2	0	7	8	32	13,431
600～999	1	6	5	1	1	4	9	27	21,933
1,000以上	2	9	3	0	0	1	6	21	28,663
計	12	23	33	6	1	15	27	117	71,009
子豚育成・肥育専門	2	4	16	1	1	7	20	51	
合計	14	27	49	7	2	22	47	168	
飼養母豚総頭数	7,589	18,882	14,495	2,135	737	8,332	18,839	71,009	

表2 認定農場および飼養母豚数の推移

年度	2021		2022		2023		2024		2025	
	農場数	飼養母豚数	農場数	飼養母豚数	農場数	飼養母豚数	農場数	飼養母豚数	農場数	飼養母豚数
北海道	13	7,837	13	7,900	12	7,607	12	7,640	12	7,589
東北	27	22,377	23	20,257	23	19,502	23	18,249	23	18,882
関東	40	15,059	37	14,782	33	13,930	33	14,230	33	14,495
北信越	6	2,079	6	2,107	6	2,114	6	2,159	6	2,135
近畿東海	2	703	2	710	1	752	1	763	1	737
中四国	15	7,446	14	6,962	15	7,412	15	8,401	15	8,332
九州	30	21,747	31	21,763	31	21,354	29	20,865	27	18,839
子豚育成・肥育専門	49		50		52		50		51	
全国	179	77,248	176	74,481	173	72,671	169	72,307	168	71,009

注) 例年同様、やむを得ない事情により認定を停止(休止)している農場については、戸数は集計に含め、頭数は含めない。GGP・GP17農場および子豚育成・肉豚肥育専門農場を含む。

# CM認定農場の生産成績 (2025年度)

2025年度生産成績集計農場数は、一貫生産農場が前年度より2農場減り88農場、繁殖専門農場は変わりなく、肥育専門農場数は1農場減った。一貫生産農場では、生産指数を構成する4項目がいずれも前年度より悪化し、生産指数の平均は1.36ポイント低下した。繁殖専門農場Ⅱでは分娩回数と出荷豚あたりの薬品費が改善され、生産指数は0.11ポイント上がった。肥育専門農場Ⅱでは農場要求率の改善が寄与して、生産指数の平均は1.28ポイント上がった。

表1 一貫生産農場

	農場数	母豚頭数	生産指数	農場回転数		農場飼料要求率		出荷肉豚頭数 / 母豚		A薬品 <sup>1)</sup> 費(¥) / 肉豚	
	88	平均		実績	指数	実績	指数	実績	指数	実績	指数
基準値			100.00	1.70	15.00	3.19	25.00	21.35	40.00	286	20.00
A <sup>2)</sup>	22	590	123.34	1.93	16.99	2.96	26.79	24.84	46.53	100	33.02
B	22	761	110.81	1.86	16.38	3.08	25.83	25.40	47.60	272	21.00
C	22	558	99.69	1.69	14.91	3.19	25.02	22.22	41.62	313	18.14
D	22	463	90.17	1.53	13.47	3.27	24.38	20.87	39.10	383	13.22
最高成績			139.53	2.55	22.50	2.59	29.70	29.50	55.27	1	39.93
最低成績			82.23	1.22	10.76	3.60	21.79	15.72	29.45	446	8.81
平均値		593	106.00	1.75	15.44	3.13	25.50	23.33	43.71	267	21.35

1) 抗菌剤 2) 生産指数の上位から4等分にクラス分けした

表2 繁殖専門農場-Ⅱ (分娩・離乳後、子豚を育成し出荷している農場)

	農場数	母豚頭数	生産指数	分娩回数 / 母豚		離乳頭数 / 母豚		出荷子豚数 / 母豚		A薬品費(¥) / 子豚	
	11	平均		実績	指数	実績	指数	実績	指数	実績	指数
基準値			100.00	2.30	20.00	22.53	20.00	21.43	40.00	160	20.00
A	3	841	122.88	2.39	20.78	24.92	22.12	24.46	45.65	45	34.33
B	3	912	117.81	2.36	20.49	24.89	22.09	23.51	43.89	69	31.34
C	3	868	101.96	2.35	20.40	25.50	22.64	25.00	46.66	222	12.25
D	2	963	82.70	2.14	18.61	20.00	17.76	18.13	33.83	220	12.50
最高成績			126.09	2.53	22.00	27.28	24.22	27.48	51.29	32	36.00
最低成績			80.26	2.08	18.09	19.75	17.53	16.69	31.15	243	9.63
平均値		890	108.49	2.32	20.21	24.17	21.46	23.20	43.30	132	23.52

表3 肥育専門農場-Ⅱ (繁殖専門農場-Ⅱまたは子豚育成農場から子豚を導入し、肥育している農場)

	農場数	出荷頭数	生産指数	農場飼料要求率		肉豚出荷率		A薬品費(¥) / 肉豚	
	12	平均		実績	指数	実績	指数	実績	指数
基準値			100.00	3.30	55.00	97.50	25.00	126	20.00
A	3	4,786	132.73	2.95	60.78	98.83	38.30	40	33.65
B	3	4,138	114.34	3.25	55.89	98.30	33.00	92	25.45
C	3	17,060	90.30	2.98	60.33	96.12	11.23	134	18.73
D	3	8,698	75.28	3.67	48.89	96.04	10.37	151	16.03
最高成績			140.56	2.71	64.83	99.05	40.50	8	38.73
最低成績			65.50	3.73	47.83	93.44	-15.60	198	8.57
平均値		8,670	103.16	3.21	56.47	97.32	23.23	104	23.47

表4 肉豚または子豚1頭あたりのA薬品(抗菌剤)費

一貫生産農場

薬品費 / 肉豚	農場数	割合 (%)
100円未満	12	13.6
100円～199円	15	17.0
200円～299円	19	21.6
300円～399円	29	33.0
400円～450円	13	14.8
計	88	100.0
基準値(286円)以内	45	51.1

繁殖専門農場(繁殖-Ⅱ)

薬品費 / 子豚	農場数	割合 (%)
100円未満	5	50.0
100円～199円	2	20.0
200円～250円	3	30.0
計	10	100.0
基準値(160円)以内	6	60.0

肥育専門農場(肥育-Ⅱ)

薬品費 / 肉豚	農場数	割合 (%)
100円未満	7	58.3
100円～200円	5	41.7
計	12	
基準値(126円)以内	8	66.7

## 豚繁殖・呼吸障害 症候群 (PRRS) 対策

東京農工大学  
名誉教授

竹原一明

豚繁殖・呼吸障害症候群 (Porcine reproductive and respiratory syndrome; PRRS) ウイルス (PRRSV) は、アルテリウイルス科 (Arteriviridae) ポラルテウイルス (Porartevirus) 属に属し、遺伝子から **PRRS-1型 (欧州型)** と **PRRS-2型 (北米型)** の2系統に大別されます。プラス鎖の一本鎖RNAをゲノムとし、エンベロープを有します。アルテリウイルス科は、ゲノムの遺伝子構成や転写・複製様式がコロナウイルス科と類似点が多く、この2つの科でニドウイルス目を構成しています。

PRRSは、母豚では流死産などの繁殖障害、育成・肥育豚では肺炎などの呼吸器障害を主徴とし、わが国では届出伝染病に指定されています。わが国での発生は主に2型によりますが、2型に分類される高病原性PRRSVはわが国での発生は未だ認められていません。

PRRSVは、マクロファージなどの単球系細胞に親和性を示すことから、感染豚は**免疫力が低下し、他の病原体の二次感染を受けやすくなります**。すなわち、PRRSの制御は、他の病原体による伝染性疾患の抑制にもつながることから非常に重要です。

PRRSVの自然宿主は豚とイノシシのみで、他の動物の感染は確認されていません。しかし、PRRSVは伝播力が強く、エアロゾルによる空気伝播のほか、ハエや蚊などの節足動物による機械的伝播も報告されています。母豚から胎子への垂直感染もあることから、母豚の衛生管理も重要となります。

PRRSVのエンベロープの主要構成成分は糖タンパク質GP5と膜タンパク質Mであり、GP5の遺伝子 (ORF5) の分子系統樹解析によりウイルス株間の比較が行われています。

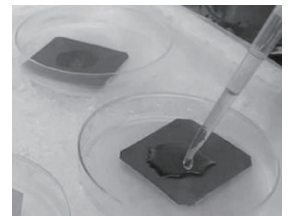
コロナウイルスでも明らかのようにPRRSVでも**抗原性の多様性**が認められており、ワクチン株による免疫では、異なる

系統 (ORF5遺伝子の相同性が84%以下) に対しては、ウイルス複製の抑制は不完全です。ワクチン以外での予防対策としては、母豚群でPRRSVを循環させず、子豚への垂直・水平感染を防ぐことが重要です。しかし、養豚場の密集地域でPRRS浸潤地域では、当面の対策として、本ウイルス陰性の導入母豚を農場内に常在化しているPRRSVに人為的に曝露させて防御免疫を誘導する管理手法である“馴致”が用いられていることもあります。しかし、何らかの形で感染してしまうと、免疫系が働かなくなり、他の病原体による二次感染を引き起こしかねません。何とかPRRSは清浄化に持っていきたいものです。

上述したように、伝播力が強く、空気伝播や節足動物による伝播もあることから、養豚場の密集地域では、1農場で実施しても、周辺農場から容易に新たな株の侵入が生じてしまう恐れがあります。PRRSを清浄化に持っていくためには、①**交配・分娩をまとめて行わせる“グループシステム”の導入により、豚舎のオールイン・オールアウトを実施し、豚舎の洗浄・消毒を徹底する。**②**豚舎ごとに専用の衣類・長靴を着用し、豚舎間伝播を抑制する。**これら①と②を地域ぐるみで実施することが重要です。

PRRSVは、温度に対する抵抗性が弱く、長期間、環境中では生存できません。また、多くの消毒薬に対して感受性です。筆者らは、PRRSVは扱ってはいませんが、コロナウイルスを対象に、逆性石鹼とマイクロ水酸化カルシウムの混合液による消毒方法すなわち“**マイクロMIX法**”で消毒試験を実施したところ、他のエンベロープウイルスと比較すると容易に消毒薬で不活化できました。ウイルスと消毒薬とを液体中で混合する試験である“液相混和試験”のみならず、ウイルスを板に張り付けて実施する“**キャリア試験**” (写真) でも、**低温下・有機物存在下でありながら、1分以内に検出限界未満にまで不活化されました。**

本欄“実践養豚衛生学”の①で説明したように、PRRS対策には、外部バイオセキュリティと内部バイオセキュリティの強化を実践する必要があります。マイクロMIX法での化学的障壁と豚舎ごとに専用の衣類・長靴の着用を行う物理的障壁の組合せで、PRRSを清浄化させ、生産性向上につながられるよう期待します。



## 協会からのお知らせ

### ●ケイアイファームが名誉賞を受賞

2月20日に開催された令和7年度東京食肉市場豚枝肉共励会において、協会認定農場である(株)ケイアイファーム北上農場が最高位の名誉賞を受賞されました。同農場は2年ぶり3回目の受賞となり、常に市場から高い評価を受けています。同農場の宮地博史社長は「うれしい、の一言です」。その後行われたセリでは1キロ2万5,001円の値がつき過去最高額となりました。

当日出品された998頭の枝肉から受賞対象となるのはわずか17頭ですが、同農場のほかにも認定農場である(有)常陸牧場、(有)胆沢養豚、(株)ケイアイファーム玉山農場産が選ばれ、存在感を示しました。



(株)ケイアイファームの宮地博史社長(左)と及川徳康専務

### ●偽社長メール詐欺にご注意ください

昨年末以降、協会のメールアドレスに認定農場名と社長名でのメールが届いております。「仕事の調整の都合により、メール受領次第、直ちに会社の在職者連絡先リストをまとめ、本メールに返信でお送りください」とか「メールを受け取った後、新しいLINEのワークグループの作成をお願いいたします」などの内容が記載されています。テレビ・新聞などによれば「偽社長メール詐欺」という新たなビジネス詐欺の一つで、連絡

先を返信させ、入金などを誘導するもので、多額の被害例もあり警察庁でも注意喚起しています。会員会社にも頻繁に届いているようです。届いたメールはすべて迷惑メールに自動的に仕訳しております。会員の皆さんも万が一にも従業員が返信などしないよう、送信アドレスや文章をよく確認するなど、くれぐれもご注意ください。

### ●理事会を開催しました

3月25日(水)、協会事務所において令和7年度の理事会をオンライン併用で開催し、新たな形式で開催される6月の

令和8年度定時総会に諮る議案等について協議いたしました。

## 認定情報

### ●2026年3月認定農場

(有効期間：2026年3月5日から2027年3月末日まで)

秋田県・(株)シムコ大館GGPセンター、全農畜産サービス(株)由利本荘SPF豚センター、全農畜産サービス(株)秋田大仙SPF豚センター、(有)十和田湖高原ファーム、宮城県・(株)シムコ岩出山事業所、茨城県・(有)中村畜産、全農飼料畜産中央研究所、千葉県・(株)シムコ館山事業所、鈴木治彦養豚、(株)スタービッグファーム、同肥育農場、(株)飯田ファーム、(有)ピギー・ジョイ第2農場繁殖農場、同肥育農場、(有)伊藤養豚飯岡農場、(有)鍋木

※次回認定委員会は2026年6月11日(木)の予定

ビッグファーム、宝理養豚繁殖農場、同肥育農場、長野県・(農)エスピーエフこがねや第二農場、JA全農長野SPF繁殖センター、JA大北白馬アルプス農場、富山県・(株)シムコ八尾GGPセンター、愛知県・(株)知多ビッグ前山農場、同美浜農場、島根県・奥出雲ファーム(有)、熊本県・全農畜産サービス(株)西日本原種豚場、(有)やまとんファーム、(有)ビッグファーム陳、(株)佐々牧場、同第二農場、鹿児島県・鹿児島いずみ畜産(株)出水農場、同阿久根農場(以上32農場)

## プロのシェフおすすめ、カンタン、おいしいSPFポークレシピ



# SPF豚バラ肉の ひつまぶし丼

●レシピ提供・朔風亭 (SAKUFUTEI) (北海道千歳市)

料理長 前田 知也

ひつまぶしといえばなぎが定番ですが、今回は豚丼を味変でいただくレシピを教えてくださいました。だしやほうじ茶ならバラ肉でもさっぱりいただけそうです。市販の調味料を使って簡単に、ちょっとアレンジして二度おいしい。ぜひお試しください。

### ●材料● (1人前)

SPF 豚バラ肉 (焼き肉用) 6枚  
 刻みのり 適量  
 白ごま 適量  
 万能葱 適量  
 天かす 適量  
 わさび 適量  
 白飯 250g  
 市販の豚丼のたれ 適量

### ●つくり方●

- ① 豚バラ肉を合わせておいたAに軽く揉み込むようにして約15分漬け込みます。
- ② フライパンに少量の油(分量外)をひき、両面を香ばしく焼き上げ豚丼のたれを絡めます。
- ③ 丼ぶりに白飯を盛り、刻みのり、白ごまをふりかけ②を盛りつけ、最後に万能葱をかけます。

### ●食べ方●

始めは豚丼として、そのあと出汁をかけてお召し上がりください。お好みで天かすやわさびをお使いください。

### 前田シェフからのアドバイス

ほうじ茶だけでなく、かつおや昆布の出汁でアレンジも。肉は焼きすぎると固くなるので注意しましょう。

< A (下味用) >		< 出汁 >	
しょうゆ	大さじ 1	ほうじ茶	180cc
酒	大さじ 1	白だし	20cc
みりん	小さじ 1	味醂	10cc
おろし生姜	5g		

## 編集後記

通勤途中の車窓から見ていると、JRの千葉幕張車両センターに、新しい仲間が増えていたのに気が付きました、黄色と水色の帯を巻いた6両編成のE233系電車です。房総地区の209系電車の置き換えと、ワンマン対応のために、中央線の車両が房総仕様で改造されてやってきました。古い209系は淘汰され、E233系に置き換わっていく様子は、まるで養豚場のようにもあり、人間社会のようにもあり、寂しい気もしますが、能力の高い若手に期待しようじゃないかと思う今日この頃です。(宅乱家半角斎)

昨年、一年ぶりに認定会議に出てきた私の回復を喜んでくれた濱岡先生がその半年後に突然亡くなってしまいました。学生時代、同級生からお兄ちゃんと呼ばれて頼りにされていたという先生は、認定会議でも厳しいことも角を丸めて丁寧に話されていました。なるほどと思いました。まだまだ頼りにしていたかったのに本当に残念です。ご冥福をお祈りし、これまでの先生のメッセージを皆で繋いでいきたいと思います。(岩魚)



## 日本SPF豚協会認定農場産シール

このマークは  
**日本SPF豚協会**の  
 登録商標です

## 日本SPF豚協会だより

第103号 2026年4月1日発行(季刊)  
 発行 〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-8-2  
 TEL.03-5835-5375 FAX.03-5835-5376  
 e-mail: j.spf.a@nifty.com  
 https://www.j-spf.com/  
 発行人 鷺谷 敏一  
 編集人 小林 一彦